

熱川温泉病院

石田 みな子（看護師・主任）

功 績	喀痰吸引の院内研修を開催したことでリハビリテーション部のセラピストのスキルアップにつながり、健育会が目指す「Our Team」による医療の実践に貢献した功績。
推 薦 者	石川 桂子（看護部長）
推 薦 理 由	被推薦者は入職16年目で病棟業務が長く、責任感があり安心して業務を任せることができる職員です。今回の彼女の活動は看護とリハビリが連携して喀痰吸引の院内研修を行い、健育会の目標である「Our Team」による医療の実践に貢献しております。是非理事長賞にご推薦申し上げます。

内 容

平成 22 年 4 月の厚労省医政局長通知「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」より、理学療法士が体位排痰法を実施する際、作業療法士が食事訓練を実施する際、言語聴覚士が嚥下訓練等を実施する際などに喀痰等の吸引が認められました。またその実施にあたっては、医療機関等で必要な教育・研修等を受けたセラピストが行うものとされ、当院でも制度開始時に研修プログラムを設けていましたが、少数の受講に留まっておりました。

主任の石田は看護部教育委員会の責任者で、これまで新卒・中国人看護師やミャンマー技能実習生の指導に取り組んできましたが、リハビリのセラピスト向けの「喀痰吸引研修」に着目しました。病棟でのリハビリ訓練中に、しばしば喀痰吸引が必要となるケースがあります。その場合、看護師が代わりに吸引を行っていましたが、時間がかかり患者さんの呼吸が苦しくなることや、病棟業務を中断する非効率性もありセラピストによる喀痰吸引の必要性を感じていました。

石田は委員会スタッフへ研修への協力を依頼しました。そしてリハビリテーション部へ参加を呼びかけたところ、日頃から患者さんのために、自分で吸引できるスキルを身に付けたいと考えていたセラピストが率先して手を挙げてくれました。昨年3月より10名が受講を開始、内容は①動画視聴と看護師を交えた勉強会②ペーパーテスト③模型を使った実技（2回以上）④実際の患者さんへの吸引訓練（3回以上）で構成。石田を始めとした教育委員会メンバーが評価者を努めました。そして、今年1月～2月にかけて合格した4名のセラピストが終了証を授与され、実際に患者さんへの吸引を行っております。

リハビリテーション部のレベルアップを図り、患者さんへのスピーディーで安全な医療を提供するための今回の石田の取り組みは、健育会が掲げる多職種による「Our Team」体制を強化するものです。是非ご評価頂ければと思います。